かたの瓦版

この時、交野は動いた

=元号でたどる交野⑤=

延宝（1673-1681 年）霊元天皇

◇前の元号である「寛文」も皇居が火事で焼けたことが改元の理由だったが、その寛文十三（1673 年）に再び皇居で火災が起こり改元の運びとなった。

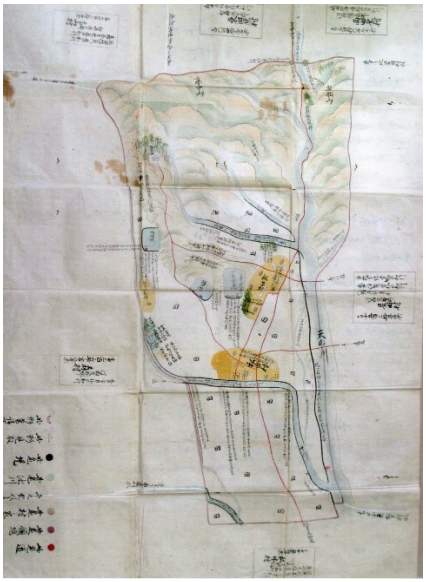
★延宝元（1673 年）寺村の今池の中樋私部寺村立会で普請する(山添正也所蔵文書)

■この頃郡津片桐石見守貞昌領５９０石余は、その一族旗本片桐某の所領となり幕末までつづく

★延宝七(1679 年)この年私部畠山領高持百姓 107 軒、無高百姓１３軒、推定人口 600 人(西株名寄帳その他より)

◇延宝八（1680 年）には、江戸幕府四代将軍徳川家綱が死去。

★延宝九（1681 年）延宝９年私市村絵図（私市村役人文書）



天和（1681-1684 年）霊元天皇

◇「辛酉革命」による改元

◇天和二（1682 年）「天和の大火」⇒別名「お七火事」

★天和三（1683 年）寺村今池の水につき私部・寺村間で出入あり(山添正也所蔵文書)

貞享（1684-1688 年）霊元天皇・東山天皇

◇「甲子革命」による改元。
貞享の一文は「いつまでも正しくいて、王が天を祀れば良いことがある。

★貞享元（1684 年）この頃僧尊誉は浄土宗知恩院末清正寺を源氏の滝口に創設(倉治光明院過去帳より推定)

瀧上坊清正寺石標・河内名所絵図

★貞享三（1686 年）私部村東株小田切土佐守の領地となる(原田家文書)

◇貞享四（1667 年）「生類憐みの令」を制定。

★貞享四（1687 年）星田 109 石、私市 145 石余、森 326 石余、寺 342 石余、傍示 29 石余、郡津 280 石余の領主永井尚富は下野烏山城にうつって、この所領を上地す。

元禄（1688-1704）東山天皇

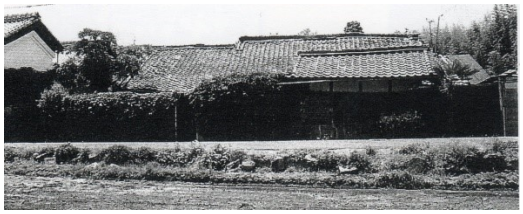
◇「元禄文化」と赤穂浪士の討ち入り

★元禄元（1688）元禄年中、星田村は落野辺水落口より天野川迄 85 間の二重堤築き以後堤敷料として年々米 10 石私部村へ納める(北田家文書)

★この頃から百姓土地質入れの証書が多く残っている(原田英二所蔵文書)

◇芭蕉が「奥の細道」の旅に出発したのは元禄二（1689 年）のことであった。

★元禄２（1689 年）貝原益軒南遊の途次私市村仁左衛門に一泊して獅子窟寺にのぼる(貝原益軒著『南遊紀行』)



=健康に勝るものなし=

★元禄三（1690 年）旗本越智家は私市 280 石を領したが旧永井尚富の領 145 石を加えて私市で 425 石を領地する。

★星田村家数 332、その内高持百姓 221、無高 111 軒、人数 1524 内男 818 人、女 813 人(星田村覚書)

★元禄四（1691 年）この年私部大久保領家数６５、内高持百姓５８、無高百姓７、人数３３０人(私部村銘細帳)

★交野、茨田、讃良三郡村々は枚方宿助郷免除訴訟をおこし三郡村々まける(向井直一家記録)

★４月大坂西町奉行小田切土佐守一行１４２人は交野地方山川を巡見する(津田小崎伝一家所蔵記録)

★元禄五（1692 年）寺村今池の水につき私部村寺村間に出入りあり(山添正也蔵文書)

★沙門月潭獅子窟寺記を書く(獅子窟寺現存)

★寺社改帳に私部住吉神社宮守として、現光寺住持空蝉の名あり(原田英二家所蔵文書)

空蝉薮（中央の無縫塔）

★この年森村家数４２軒(向井直一家所蔵文書)

★森村に村中法度できる(向井直一家所蔵文書)

★元禄六（1693 年）私市 155 石は徳川領となり、以後代官支配して文久元年までつづく

★元禄七（1694 年）郡津 280 石余、森 326 石余、私部 508 石余、星田 109 石余は小田原城主大久保忠朝領となり幕末までつづく

★倉治村、郡津村、枚方宿の大助郷となる（原田家文書)

★元禄十一（1698 年）私部上河原の光蓮寺、大洪水による壊滅のため、北田家より西河原に寺地を寄付す(原田英二家所蔵文書)

★元禄十二(1699 年)当時無量光寺の本堂は正面五間、奥行三間のわら屋根で、まわり三方に一間の瓦庇がついていた（『無量光寺４５０年史』)

★傍示国境では大和、河内東西傍示の村役人立会い国境地を見届ける(伊丹聖家文書)

★元禄十三（1700 年）私部住吉神社宮座講につき争いあり、無量光寺六世貞岸仲裁斡旋しておさまる(『無量光寺四百五十年史))。

★この頃上河原から西河原に移った光蓮寺を、宮寺現光寺に引移す(原田英二家所蔵文書)

★この年秋私部宮座の上下について争いおこり、五か条の規約をつくる(私部北村菊松家所蔵記録)

★この年森村から出奉公人 27 人(向井直一家文書)

★江戸幕府役人交野の山へ薬草採集に来る(向井直一家文)

◇元禄十四（1701 年）「赤穂事件」

★元禄十六(1703) 星田山中の小松寺が荒廃したので、十一面観音を星田寺へ、薬師仏を光明寺へ移す

十一面観音（星田寺）

薬師如来（光明寺）

★寺村では本郷と出作の間に役米につき出入おこる(山添正也家文書)

★星田村荒地を起返し開きをする(神戸市中部よし子所蔵文書)

★傍示山大雨で山崩れあり、その土砂私部上河原に流れて田を埋める(山添正也所蔵記録)

宝永（ほうえい）（1704-1711）東山・中御門天皇

◇地震、火事、富士山大噴火

前年に「元禄地震」が起きたための改元

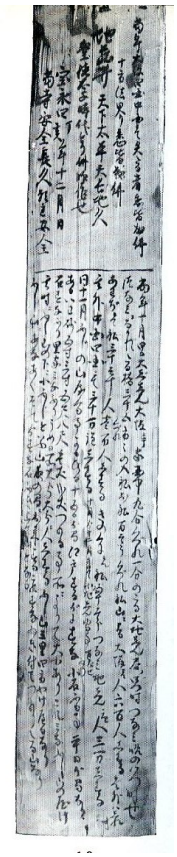
★宝永元年（1704）夏大雨のため大洪水大山崩れで、森の田地高 170 石砂入りとなる(向井直一所蔵文書)

★宝永年間磐船明神で星田、私市、田原、南田原氏子中に宮座争いを起こし、四ヶ村それぞれ明神分霊を各村に移して祀る。私市では若宮神社（江戸時代前）星田では住吉神社(宝永年間)としているが?

★宝永二年（1705 年）寺３４２石余、傍示３９石余は本多伯耆守正永領となり享保４年までつづく

★星田村荒地開発をはじめる(神戸市中部よし子所蔵文書)

◇宝永四（1707 年）愛染律寺の地蔵菩薩背面板より、宝永大地震による近畿地方を初め中・四国の災害を記録したもの。



明治 5 年に岡山県井原市・高山寺に移坐

★宝由永四年（1707）寺村道場に寺号正行寺と立てるべき由大坂奉行所へ願出る(山添正也家文書)

★宝永五年（1708）森村ひもりでんに新池築立(向井直一所蔵文書)

森新池（現・あまだのみやちどりこども園）

★宝永七年（1710）無量光寺は私市村に道場を建てる。これ西念寺の起源(西念寺記録)➡寛永二（1625 年）の際は、一宇の草庵を設けた

正徳（しょうとく）（1711-1716）中御門天皇

◇中御門天皇即位による改元

新井白石の「正徳の治」

◇正徳のもととなった「正徳、利用、厚生、惟和」という一文は「道徳を正すこと、民の力と財産を活用すること、民の生活を豊かにすること」

★正徳五年（1715）星田光明寺古儀真言宗東寺末となり、第一世文盛住持す(同寺所蔵記録)

光明寺薬師堂

（参考資料）交野市史・交野町史復刻編

元号でたどる日本史（ｐｈｐ）

光明寺のあゆみ

=了=